

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 20 年 1 月 17 日 (2008.1.17)

【公表番号】特表 2007-513233 (P2007-513233A)

【公表日】平成 19 年 5 月 24 日 (2007.5.24)

【年通号数】公開・登録公報 2007-019

【出願番号】特願 2006-541999 (P2006-541999)

【国際特許分類】

**C 0 9 C 3/08 (2006.01)**

**C 0 9 C 3/10 (2006.01)**

**C 0 9 D 17/00 (2006.01)**

**C 0 9 D 11/00 (2006.01)**

**B 4 1 M 5/00 (2006.01)**

**B 4 1 J 2/01 (2006.01)**

【F I】

C 0 9 C 3/08

C 0 9 C 3/10

C 0 9 D 17/00

C 0 9 D 11/00

B 4 1 M 5/00 E

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 20 日 (2007.11.20)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

改質粒状固体の製造法であって、粒状固体及び液状媒体の存在下で分散剤と化合物とを反応させることを含み、

a) 前記分散剤は、ケト、アルデヒド及びベータ - ジケトエステル基から選ばれる少なくとも 1 個の反応性基を有し、

b) 前記化合物は、前記ケト、アルデヒド及び / 又はベータ - ジケトエステル基に対して反応性を有する少なくとも 2 個の基を有することを特徴とする製造法。

【請求項 2】

( i ) 前記製造法によって製造された改質粒状固体が封入粒状固体であり；

( ii ) 前記分散剤が、ケト、アルデヒド及びベータ - ジケトエステル基から選ばれる少なくとも 1 個の架橋可能基を有する分散剤であり；

( iii ) 前記化合物が、前記架橋可能基に対して反応性を有する少なくとも 2 個の架橋基を有する架橋剤であり；そして

( iv ) 反応が、分散剤を架橋剤で架橋させ、それによって粒状固体を架橋分散剤内に封入することを含む、

請求項 1 に記載の製造法。

【請求項 3】

前記化合物が液状媒体に可溶性の架橋剤である、請求項 1 又は 2 に記載の製造法。

## 【請求項 4】

前記化合物が、前記架橋可能基に対して反応性を有する少なくとも 2 個の架橋基を有する架橋剤であり、前記架橋基が求核剤である、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の製造法。

## 【請求項 5】

前記架橋基が、アミン、イミン、ヒドラジド及びチオール基からそれぞれ独立して選ばれる、請求項 4 に記載の製造法。

## 【請求項 6】

前記分散剤がポリビニル分散剤である、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の製造法。

## 【請求項 7】

前記ポリビニル分散剤が、アクロレイン、メチルビニルケトン、アセトアセトキシエチルアクリレート、アセトアセトキシプロピルメタクリレート、アリルアセトアセテート、アセトアセトキシブチルメタクリレート、2, 3 - ジ(アセトアセトキシ)プロピルメタクリレート、アセトアセトキシエチルメタクリレート及びジアセトンアクリルアミドから選ばれる少なくとも 1 個のモノマー残基を含む、請求項 6 に記載の製造法。

## 【請求項 8】

前記ポリビニル分散剤がジアセトンアクリルアミド由来の少なくとも 1 個のモノマー残基を含む、請求項 6 又は 7 に記載の製造法。

## 【請求項 9】

前記分散剤が少なくとも 1 個のベータ - ジケートエステル架橋可能基を有する、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の製造法。

## 【請求項 10】

前記液状媒体が、ベータ - ジケートエステル基に変換可能な少なくとも 1 個のエナミン / ケチミン基を有する分散剤をさらに含む、請求項 9 に記載の製造法。

## 【請求項 11】

少なくとも 1 個のエナミン / ケチミン基を有する分散剤が、少なくとも 1 個のベータ - ジケートエステル基を有する分散剤と一官能価アミンとの反応によって得られる又は得られうる、請求項 10 に記載の製造法。

## 【請求項 12】

前記一官能価アミンがアンモニアである、請求項 11 に記載の製造法。

## 【請求項 13】

反応が 60 未満の温度で実施される架橋である、請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の製造法。

## 【請求項 14】

得られた改質粒状固体を液状媒体から単離する更なるステップを含む、請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の製造法。

## 【請求項 15】

請求項 1 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の製造法によって得られる又は得られうる改質粒状固体。

## 【請求項 16】

液体ビヒクルと請求項 15 に記載の改質粒状固体とを含む組成物。

## 【請求項 17】

25 で 20 mPa・s 未満の粘度を有する、請求項 16 に記載の組成物。

## 【請求項 18】

前記液体ビヒクルが、水と有機溶媒を 99 : 1 ~ 5 : 95 の重量比で含む、請求項 16 又は 17 に記載の組成物。

## 【請求項 19】

請求項 16、17 又は 18 に記載の組成物を基材に適用することを含む、基材上への画像の印刷法。

## 【請求項 20】

印刷がインクジェットプリンタによって実施される、請求項 19 に記載の印刷法。

【請求項 21】

請求項 16、17 又は 18 に記載の組成物を用いて請求項 19 又は 20 に記載の印刷法によって印刷される紙、プラスチックフィルム又は織物材料。

【請求項 22】

チャンバと組成物とを含むインクジェットプリンタ用カートリッジであって、前記組成物はチャンバ内に存在し、前記組成物は請求項 16、17 又は 18 に記載の通りであるインクジェットプリンタ用カートリッジ。

【請求項 23】

前記粒状固体が着色剤又はフィラーであり、前記組成物がバインダをさらに含む、請求項 16 に記載の組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0077

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0077】

好ましくは、該製造法によって、化合物添加前の粒状固体の Z 平均粒径と比べ最大で 50 % 大きい、さらに好ましくは最大で 25 % 大きい、さらに特に好ましくは最大で 15 % 大きい Z 平均粒径を有する改質粒状固体が得られる。